

2024年度 事業報告

社会福祉法人すまいる厚生会は、在宅における利用者のケアマネジメント業務を展開している居宅介護支援サービス、利用者宅に訪問し生活支援や介護をする訪問介護サービス、通いにて入浴、排泄、食事等の提供を行う通所介護サービスを中心に事業展開し、地域に根ざし利用者の方々、ご家族に愛される事業所として運営しています。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、日常が戻ってきた2023年度においては、職員の退職による減員、人手が足りないことによる利用者の大幅な減少、利用率の低下など、危機的な状況に陥りました。

この2023年度の状況を受け、2024年度は経営等検討委員会を開催し、法人の方向性やあり方について検討を重ねました。

中央デイの形態の見直し、居宅介護支援事業所の方向性、不採算事業をどうしていくのかという検討において、営業活動や人員体制・職員配置の見直し、また給与体系の見直しによる職員の定着化などが提案され、それぞれについて着手しました。

利用者数の増加に向けてさまざまな活動を行った結果、2024年度の収支状況については、収入計は2億3,518万1,394円となり、支出計が2億3,186万9,331円となり当期資金収支差額合計は331万2,063円となりました。

また、災害や虐待防止、感染症対応等にむけた委員会を開催するとともに、研修計画に基づく専門研修やスキルアップ研修を実施しました。

地域公益としては、介護実習生を積極的に受け入れました。また、教職員へのセミナーを開催しました。

介護サービス事業所として、さらなる法令遵守の徹底と介護保険制度に則した適正な法人運営を行うとともに利用者保護・介護事故の防止等に努めました。

2025年度は、団塊の世代の全ての方々が後期高齢者となります。多様な介護への要望に対応し、事業継続を図り、法人の将来を見据えた財政基盤の構築に取り組んでまいります。

2024年度における主要事業の活動状況については次のとおりです。

1 通所介護事業

通所介護事業では、利用者の在宅生活の維持向上のため、入浴・排泄・食事等の生活支援や機能訓練を行いました。

また、利用者がデイサービスセンターでの生活を楽しめるようにレクリエーションを工夫し、落ち着いて過ごしやすい雰囲気づくりに努めました。

(1) 中央事業所

利用状況については、1日の平均利用目標24名、年間利用目標7,392名（営業日数308日）に対して利用実績は6,341名（目標対比85.8%）となり、前年度の利用実績4,724名からは1,617名の増（前年度対比134%）となりました。

要介護3以上の利用者の割合は、年間平均34%でした。

年間の利用状況では、年度当初1日平均19.5名の利用から始まり、新規利用者は年間で34名（前年度40名、対比85%）でしたが、既存の利用者の回数の増加等により年間の1日平均人数は20.6名となりました。（前年度15.4名、対比134%）

イベントについては、音楽療法を定期的を実施しました。また、機能訓練を新規利用者に参加いただき、個別機能訓練加算を取得しました。

その結果、利用者数、利用回数ともに前年度を大きく上回ることとなりました。

(2) 神戸西事業所

利用状況については、1日の平均利用目標15名、年間利用目標4,620名（営業日数308日）に対して利用実績は4,307名（目標対比93.2%）となり、前年度の利用実績4,209名からは98名の増（前年度対比102%）となりました。

年間の利用状況では、1日の平均利用者数は14名となり、前年度の13.7名から増加しました。

ご家族やケアマネジャーとの連携を密に行い、個別対応を強化することにより、ご家族や事業所との信頼関係を構築し、利用回数の増加や新規利用者の紹介につながりました。

また、認知症対応等スタッフの介護技術の強化に努めました。

利用者に居心地の良い時間を過ごしていただくように努めるとともに好評を得ている毎月のカレンダー等の創作活動をはじめ、今後もさらなる取り組みを行います。

2 居宅介護支援事業所

居宅介護支援専門員が要支援・要介護状態の利用者に対し、可能な限り住み慣れた地域での生活が継続できるよう、アセスメントやモニタリング評価を十分に行うとともに、サービス提供事業所や地域包括支援センター・介護保険施設・医療機関等との連携を密に行い、生活支援を推進しました。

(1) 中央事業所

職員体制については、年度当初は介護支援専門員 2 名体制でしたが、5 月からは 1 名採用により 3 名体制で取り組みました。一人当たりの目標を 31 名（要支援含む）とし、年間利用目標 1,116 名に対して利用実績は 894.5 名（目標対比 80.2%）となりましたが、3 月には月目標件数 93 名を上回る 94 名のご利用がありました。

また、前年度の利用実績 675.5 名に対し、219 名の増（前年度対比 132%）となりました。

要介護の新規の受け入れ人数は 36 名となり、前年の 9 名に対し 27 名の増となりました。

3 名体制になることにより、7 月から特定事業所加算Ⅲ（300 単位）を算定する体制となりました。

人材育成については、困難事例の受け入れや他事業所との合同事例検討会を実施しました。また、社会福祉協議会や地域包括センターと連携し、適正なケアマネジメントの実施に取り組みました。

(2) 神戸西事業所

職員体制については、介護支援専門員 3 名体制で特定事業所加算Ⅲ（300 単位）の算定をする体制で取り組みました。3 名の目標を 95 名（要支援含む）とし、年間利用目標 1,140 名に対して利用実績は 970.4 名（目標対比 85.1%）となり、前年度の利用実績 871 名からは 99.4 名の増（前年度対比 111.4%）となりました。

要介護の新規の受け入れ件数は 42 名となり、前年の 32 名に対し 10 名の増となりました。

人材育成については、特定事業所加算を受領している事業所としての研修体制を強化し、スキルアップを図るとともに多種多様なケースを受け入れ積極的に取り組みました。

また、事業所内での書類の統一化やケースファイルのチェック体制の強化を図ったことにより、10 月に実施された神戸市の運営指導（実地指導）においては当日口頭指導に止まりました。

3 訪問介護事業

訪問介護事業では、要介護者一人ひとりが「その人らしい」日常生活を営めるよう心身の特性や介護者を取り巻く環境などを細かく観察し、援助活動を推進しました。

また、地域包括センターや居宅介護支援事業所との報告・連絡・相談を密に行い、サービスの向上や利用者の確保に努めました。

しかしながら、2024年4月に実施された介護報酬改定で、訪問介護事業については収入を支える基本的な報酬が減額となったことが大きく影響し、収入は伸び悩みました。

(1) 中央事業所

利用状況については、サービス提供責任者4名体制で月全体目標120名とし、年間利用目標1,440名に対して利用実績は1,305名（目標対比90.6%）となり、前年度の利用実績1,116名からは189名の増（前年度対比116.9%）となりました。自費サービスの提供時間は252.5時間となり、前年度231.3時間から21.2時間の増（前年度対比109%）となりました。

(2) 神戸西事業所

利用状況については、サービス提供責任者4.5名体制で一人当たり目標33名とし、年間利用目標1,704名に対して利用実績は1,704名（目標対比100%）となり、前年度の利用実績1,650名からは54名の増（前年度対比103.2%）となりました。自費サービスの提供時間は229時間となり、前年度186.5時間から42.5時間の増（前年度対比122.8%）となりました。

10月に実施された神戸市の運営指導（実地指導）においては、当日口頭指導に止まりました。

また、地域貢献事業として、神戸市青少年育成協議会の依頼により「青少年を守る店」「地域みはり番（イエローフラッグ）」を継続して実施しました。

4 障害福祉サービス

障害のある方の障害の程度や勘案すべき事項（社会活動や介護者、居住等の状況）を踏まえ、障害者一人ひとりが「その人らしい」日常生活を営めるよう、援助を行いました。

また、障害者地域支援センターとの報告・連絡・相談を密にし、サービス向上や利用者確保に努めました。

居宅介護の年間利用者数は280名で利用回数は1,712回となり、前年度の利用回数2,131回から419回の減となり、人数は前年度296名から16名の減となりました。

移動支援の年間利用者数は62名で、利用回数は220回となり、前年度の年間利用者数55名、利用回数212回から8回の増となり、年間利用者数55名から7名の増と

なりました。

地域の障害支援センターと連絡を密に取り合い、利用者のニーズの確認や関連機関との情報共有を行いサービスの向上に努めました。

2024年度 重点取組報告

介護業界を取り巻く経営環境の急激な変化に対応し、競争環境に適応するために策定した経営計画により、重点実施事項である5つの視点に基づき取組みました。

1. 学習と成長の視点

(1) 研修

集合研修、専門研修等オンライン開催も含め各職員が受講
回数 年間12回開催

(2) 勉強会・委員会

B C P委員会 10月29日 11月27日 開催
虐待防止委員会 12月24日開催

(3) 給与規程の改正と個別説明

給与規程を改正し2025年1月から施行
パートを含めた全職員との面談を12月・1月に実施

2. 業務プロセスの視点

(1) 営業活動の強化

(2) デイサービスセンターでの記録作業の簡素化に向けた取り組み

3. 顧客（利用者）の視点

(1) インターネットでの発信

中央デイと須磨デイでの献立表をHPに掲載

4. 財務の視点

予算の立案に際し、目標設定と数値目標設定を実施

5. 地域公益の視点

(1) 介護実習生の受け入れ

兵庫県立衛生学院と神戸市医師会看護専門学校からの学生を受け入れ、中央通所介護と中央訪問介護で介護実習を実施

(2) 教職員へのセミナーの開催

兵庫県学校厚生会の会員に対し、介護の理解を深める講座を2回実施